

## まえがき

序章「まさか！ 私が書籍を出すなんて……」

2018年7月某日、私はお店が閉店してからこの原稿と格闘しております。

お話をいただいたのが、およそ半年前。文才など全くなく、書籍に書けるような実績も体験もない単なる中年オヤジに出来るのだろうか？ 不安とにらめっこしながら少しずつですが原稿を進めている状態です。

子供の頃はプロ野球選手とかパイロットとかが人気の職業の時代（自分の世代ではJリーグがなかったのでサッカー選手はほぼ皆無）。自分自身は物書き、いわゆる小説家とか新聞記者が憧れの職業でした。取材と執筆活動で全国いや世界中を駆け巡るそんな夢を少年時代は抱いておりました。

私に限ったことではないのですが、年齢を重ねるごとに夢と現実を天秤にかけて現実路線をたどる、自分もそんな人生で折り返しを迎えました。

20代半ばの頃、両親の経営する飲食店が手薄ということもあり、何の目的も夢もなくとりあえず食っていけるだろうという甘い目論みで飲食の世界へ飛び込みました。そこから紆余曲折を経て、現在は書籍を書く立場に。

「思考は現実になる」よく自己啓発本で出てくるワードです。当時は、「何言ってるの？ 成功者の戯言でしょ？」それが本音でした。

恐らく、両親が営む飲食店が順風満帆で妻子と普通の暮らしを続けていたら、今この瞬間の執筆活動は永遠に訪れないでしょうし、本編でも綴りますが自ら作った料理がテレビや雑誌で紹介されるなんてことは絶対に訪れなかったでしょう。

自分でなんとか売上を伸ばし、お店を立て直さなければという使命感というより危機感から「絶対に3年以内にテレビで紹介されて行列の出来る繁盛店にする」と毎日朝晩イメージしながら仕事に臨みました。

当時は成功者の戯言、自慢話と置いていたことを実行したら、数年後には現実とシンクロするように実現してきました。

そして、30年以上の歳月を経て、少年時代に本ばかり読んでいつか人を喜ばせるような本を書いてみたい、そんな夢を思い抱くも、「無理に決まっている、そもそもどうすればなるのか、学歴が必要なのか」今考えれば覚悟も信念もなく、言い訳という名の逃げ道を自分で作っていたのでしよう。

自分自身も40代半ばで人生の大きなチャレンジ、このような書籍を書くことで人生がこの先どのように舵を切られるのかワクワクしております。

今回は、かつての私のように、お店の売上が下がりに続けて経営が立ち行かなくなってしまう悩んでいる人へ、1つでも行動や気づきとなり、売上アップに繋がる書籍に仕上がればと、お話をいただき承諾しました。

当然、素人の文章なので読みづらかったり焦点がぼやけたりなど欠点も出てくると思います。

しかしただ1つ、自信を持って言えることは、今悩んでいる飲食店主さんと同じ悩みを持ち、結果を出すために行動し、結果を出したからこそ同じ立場・同じ目線で的確にアドバイス出来るのは自分しかないかと。

そして、この書籍を読んでもらい1円でも多く売上を伸ばしてもらおうこと。これを実現しなければ話になりません。

単なる技法の説明でなく、あなたの売上アップの行動に繋がるようにならなければいけません。

私も商売に行き詰まり何冊も何冊も経営本を読みあさりましたが、皆さん大成功を収めた上に、土俵もまるで違う実績豊富な立場の方ばかり。

私のように経営実績は日本で一番無名の男の書籍は恐らく日本で初なのかもしれません。なにせ、僅か20席ほどの小さい飲食店経営者なのですから。

だからこそ身近で的確なアドバイスを、そして気づきを得て行動に繋がりを売上アップの手助けになつてもらえると信じて書き綴ります。

と同時に、ここにたどり着くまで本当に数々のドラマがありました。単なる専門書ではなく身の丈の話を進めながら、いかにして売上をアップさせて、テレビや雑誌などのマスコミ取材100社以上を実現し、行列の出来る繁盛店を作り上げていったのか。その方法を全て包み隠さず紹介してまいります。

次は、あなたのお店の出番です。あなたのお店がテレビで紹介されて有名人がやって来る。店内には壁一面有名人のサインがずらり。私も現実になうなるなんて思っておりませんでした。10年前までは……。

私には、残念ながら料理の腕も経営手腕もありません。そんな男でもそれを可能にしたのです。あなたに実現出来るという思いがあれば可能です。

それでは、いよいよプレスリリースで売上3倍アップへの始まりです。